

西尾一色ロータリークラブ月報

2022-23年度
国際ロータリー
のテーマ



2022年 8月号

URL <http://www.katch.ne.jp/~ishikirc/> E-Mail ishikirc@katch.ne.jp

第2862回 例会 令和4年8月4日(木)

出席委員会委員長 神谷正康
会員総数 22名
本日の出席者(免除者) 12名(1名)
本日の出席率 63.1%

会長テーマ

楽しくなければつまらない
Part2

2022~2023年度
西尾一色RC 会長 早川比呂太

例会場/一色町商工会館

事務局/一色町商工会内 Tel:0563-72-8276 Fax:0563-73-6633

【会報委員会】 尾崎三枝子 田中三千雄 神谷林

会長あいさつ

会長 早川比呂太 君



神谷正康君 今年も普元寺さんにお世話になります。
鳥居萬里君 早起きは気持ちいいですね。
尾崎三枝子君 久しぶりに早起きしました。
牧野美恵君 おはようございます。パン屋さんのトラックがパンを配達しているのを見て、朝早いんだなと実感しました。

神谷 林君/藤井基夫君/田中三千雄君

10件 15,000円

本日の卓話

早朝例会

普元寺 6時00分～
西脇顕真 住職

お釈迦様の生涯⑥

今年もお釈迦さまの伝記である仏伝経典を手がかりにお話いたします。昨年は四門出遊のエピソードの中からカピラ城の皇子だったお釈迦さまが東の門から出て老人に出会ったところまでお話ししましたが、その続きです。ある時、皇子はお城の南の門から散歩に出かけました。そこで出会ったのは病に苦しむ病人でした。南という方角は日当たりが良く草木が元気に生い茂る方角であり、季節で合えば生命力溢れる夏を表します。その南の方角で病人に出会うわけです。それは、私たちの健康は当てにならない、元気な私がいつ病に犯されてもおかしくないのだという人生の無常を

皆さんおはようございます。本日は毎年恒例の早朝例会ですが、毎年8月の第1週の木曜日に行っていますが、この早朝例会が8月第1週以外に行われた記憶がありませんので、西脇住職が心得ていてこの日をちゃんと空けておいていただいているお陰と感謝します。お話はいつも興味深く拝聴していますが、人の行き死にや苦難についてのお話は正しく四苦八苦を説かれているんだなと感じています。今日もお話を拝聴し今後の人生を見直すいい契機になればと思っています。

今週のスマイル

親睦委員長 田中三千雄 君

早川比呂太君 諸先輩方に感謝。
渡邊 徹君 朝は涼しいですね。今日も一日よろしくお祈りします。
鈴木茂朗君 早起きは良いですね。さわやかで。感謝です。

あらわしているとも言えます。さて、ここで問題にしているのは仏教で説く四苦八苦の中の病苦です。仏教では病気をどのように受け止めるかを考えてみましょう。

もうずいぶん前の話ですが、ある女性が酷い頭痛が治らなくて悩んでいてそのことをご近所の人に話したら、「それは何かの祟りかもしれない、一度見てもらった方がいい」と言われて霊能力者を紹介されました。見てもらったら何かの怨霊が頭に憑いているので特別な御祈禱をしなければ治らないと言われたそうです。何回も通って言われるままに御祈禱を受けたのですが治らなかったそうです。それでさらに強力な御祈禱しないと効き目がないと言われてより高額な御祈禱をすすめられたそうです。それで悩んで普元寺に来られたのです。私は、その御祈禱を断って名古屋の頭痛専門のペインクリニックに行くことをお勧めしました。病気を治したかったら宗教家のところに行くのではなく医者に行くべきです。お釈迦様でさえ病気になった時は、主治医の耆婆(ぎば)に治療してもらいました。仏教では病気そのものではなく病気になった自分の人生をどう受容するかを教えています。

年老いたお釈迦様が故郷に帰る旅の途中で、お釈迦様の熱烈な信者だった鍛冶職人のチュンダがお釈迦様をもてなすために御馳走を用意しました。ところがお釈迦様はその料理で食中毒になり苦しみます。その時、泣いてあやまるチュンダに向かって「チュンダよ。泣くな。お前が施してくれた料理は、かつてスジャータが私に施してくれた乳粥と同じくらい尊いものだった。チュンダよ。精一杯のもてなしをありがとう」と言葉をかけたのでした。この言葉によってチュンダも救われ、お釈迦様自身もチュンダを恨む心に乱されることなくただ病気の身を受け止めて旅を続けたのでした。病気になった人生をどう生きるかを仏教は教えています。最後に癌を宣告されたある坊守(住職の妻)の詩を紹介します。

「癌と言われて死を連想しない人がいるだろうか / 医学が進歩した現在 死と直面できる病いに 仲々出会うことができない / いつ死んでも不思議でない私が / すっかり忘れて うぬぼれていたら /

ありがたいことに 癌という身をもって / うぬぼれを砕いてくれた / どうしようもない私をおもって / この病いを下さった / おかげさまで おかげさまで / 自分の愚かさが 少しずつ見えてきまして / 今現在説法の法座に 座わらしてもらっています」鈴木章子著 『癌告知のあとで』より抄出

※今現在説法とは『仏説阿弥陀経』に出てくる言葉で、今現在も阿弥陀仏が教えを説き続けているということ。ここでは病を得て仏の教えに心開かれ人生そのものが仏の説法が聴こえる場所に転じられたということ。



8 月のお祝い

★会員誕生祝

長田 治 君 鈴木泰光 君

★入会祝

太田幹浩 君 池田榮三 君

★創業記念日

小出道治 君

★出席 100%家族協力賞

太田幹浩 君 池田榮三 君